

	理工学部材料機能工学科
DP	<p>材料機能工学科は、本学立学の精神を礎とし、次の資質・能力を身につけた学生に学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>①幅広い教養と語学力を身につけ、広い視野と国際的な観点、ならびに、高い倫理観に基づき判断し、社会の持続と発展に資する行動と他者との協同的な振る舞いを見極めることができる。</p> <p>②材料開発に必要な科学、工学、技術の基本事項を習熟し、社会における諸問題の解決のために活用できる。</p> <p>③生涯にわたり主体的に学び、自立して探究することができる。さらに、この持続的な学びの成果を社会に還元し、他者と協同して、社会の持続と発展のために役立てることができる。</p>
CP	<p>材料機能工学科は、学位授与方針に示す資質・能力を学生に身につけさせるため、次のような教育課程を編成し、教育します。</p> <p>①教養教育課程では、人文・社会・語学、体育等の科目からなる教養教育科目群を体系的に編成する。講義、演習、実習、実技等の多彩な授業実施方法を準備することで、学生は、様々な価値観に触れ、国際的な視野を滋養し、物事を多角的にとらえる資質・能力を身につけることができる。さらに持続的な社会発展に向け行動し、協同的な貢献をできるようにする。</p> <p>②専門教育課程では、はじめに、数学、物理学、化学、情報技術、技術者倫理等からなる理工学の基礎科目群を重点的に修得し、続いて、応用数学、電磁気学、材料力学等の導入科目群に入門し、最終的に、それらの科目群を礎にした学科の専修科目群で応用力を身につける。一連の科目は、授業実施方法として、講義、演習、実験、実習などの最適な形態で行われるとともに、学年年次の流れに対し縦横に渡り有機的につながり、体系化されることで、学位授与方針の要件②に示される資質・能力に磨きをかけることができる。</p> <p>③本方針の教育課程の要件①と②に謳われる科目群を講義、演習、実験、実習等の方法で能動的に学修することにより、立学の精神を理解し、生涯にわたって主体的に学び、社会における様々な考えを受け入れることができるようにする。具体的には、他者の立場を理解しながら協同的に関わり、課題に取り組むことができ、卒業後も、広い視野と国際的な観点を自立的に育み、目まぐるしく変化する状況に機微に対応し、正しく社会貢献できるようにする。</p> <p>④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学修行動調査やGPA、修得単位数等にもとづくきめ細かい指導を継続して行うことにより、各学生の将来計画に応じた学修を進められるようにする。</p>
AP	<p>材料機能工学科の卒業認定に関する方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。</p> <p>①一般選抜では、高等学校における数学、理科および英語の基本事項を修得している。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を修得している。</p> <p>②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。</p> <p>③本学科の重視する材料に関する科学・技術に興味をもち、主体的に多様な人々と協力し、社会に貢献する意欲を有する。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>